

<特集「他動性」>

テトウン・ディリの他動性 Transitivity in Tetun Dili

加藤稚菜
Wakana Kato

東京外国語大学言語文化学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、『語学研究所論集』第19号(2014, 東京外国語大学)の特集「他動性」におけるアンケート項目に対するテトウン・ディリのデータ, その簡単な解説およびコメントを提供する.

Abstract: This report aims to provide the Tetun Dili data which answers the survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 19, 2014, which focuses on the cross-linguistic study of 'Transitivity'.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001486>

キーワード: 東ティモール, テトウン・ディリ, 他動性

Keywords: Timor-Leste, Tetun Dili, Transitivity

1. はじめに

本稿では, テトウン・ディリの他動性に関する事項について記述を行う. 今回の記述は『語学研究所論集』第19号(2014)の特集テーマ「他動性」のアンケート項目に基づいている. アンケート回答に際しては, 執筆者が佐近(2020)に示されているインドネシア語の例文をもとにテトウン・ディリへの翻訳を行い, その後コンサルタントの協力を得て修正を行った. そのため, 一部データにはインドネシア語の文の影響が少なからずみられる点に注意されたい.

調査はコンサルタント協力のもと, 東ティモールの首都ディリで2025年8月から9月にかけて行ったものである. コンサルタントはディリで生まれ育った20代の女性であり, 家庭ではマカサエ語¹を話すバイリンガルである.

テトウン・ディリは表記に揺れがあるが, 本稿はWilliams-van Klinken (2015)のテトウン-英語辞書を参考にしている. なお, Williams-van Klinken (2015)に見出し語として掲載されているものは, 複合語であっても原則一語として扱い, 便宜的に「-」を用いて表す.



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します.
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ マカサエ語は東ティモールで話される言語のひとつであり, パプア諸語に属す.

2. テトゥン・ディリの概要

テトゥン語は、オーストロネシア語族の中央マレー・ポリネシア語群に属す。さらにテトゥン語は大きくテトゥン・ディリ (Tetun Dili) とテトゥン・テリック (Tetun Terik) に分けられる。テトゥン・ディリは東ティモールの首都であるディリで話される第一言語であり、テトゥン・テリックは農村部で話される第一言語である² (Williams-van Klinken et al. 2002: 1)。

しかしながら、テトゥン・ディリは東ティモールの大部分でリング・フランカとしても話されている。テトゥン・ディリを第一言語とする人はわずか 50,000 人ほどであり、第二言語として話す人は数十万人いる (Williams-van Klinken et al. 2002: 2)。そのため、本稿ではテトゥン・ディリを扱うが、そこにリング・フランカとしてのテトゥン・ディリも含めることとする。

以下、テトゥン・ディリの特徴について Williams-van Klinken et al. (2002: 5)を要約する。

音韻：単純な 5 母音体系を持ち、多くの子音音素やほとんどの連続音の例はポルトガル語から借用されている。アクセントは通常は最後から 2 番目の音節に置かれる。

語彙：ポルトガル語からの借用と翻訳借用の度合いが高く、特に専門用語や抽象的な語彙に顕著である一方で、ほとんどすべての挨拶、一般的な呼びかけ、多くの一般語、数詞 (テトゥン語やインドネシア語と併用される)、前置詞や接続詞にも及ぶ。

形態：生産的な形態的手法は限られている。テトゥン・テリックとは異なり、動詞に人称・数の標示はない。ポルトガル語の形態の借用、特に生産的な能動者接尾辞-*dor* の借用が見られる。ポルトガル語の動詞は通常、その三人称単数形で借用される (例：テトゥン語の *kanta* はポルトガル語の *canta* 「歌う (三人称単数)」から)。ポルトガル語の名詞や形容詞は通常、男性形で借用される (例：テトゥン語の *falsu* はポルトガル語の *falso* 「偽の (男性形)」から)、ただし、例えば男性形の *sobrinho* 「甥」と女性形の *sobrinha* 「姪」のように、特に女性を指す場合は例外となる。

統語：語順は基本的に主語-動詞-目的語 (SVO) であり、連続動詞の使用が一部見られる。受動態は存在しない。修飾語は名詞句内で名詞の後に置かれる。類別詞は主に人間に限られる。

3. テトゥン・ディリの文構造と意味分類との対応

以下の表 1 はテトゥン・ディリの文構造と風間(2014)による意味分類との対応を表したものである。テトゥン・ディリにおいて、典型構造で表される範囲は広い。典型構造とは、その言語の他動詞文において最もデフォルトな構造を指す(風間 2014: 37)。テトゥン・ディリの場合は、目的語とみなせる項が前置詞などを伴わずに現れる場合を典型構造とした。

一方、典型構造が現れないのは「飲食欲求」と「寒さ」であり、それらは風間(2014: 40)で示されている通言語的な傾向と一致している。

² テトゥン語の分類に関しては研究者によって差異があり、Greksakova (2018)に詳しく記述されているが、本稿では前述の通り Williams-van Klinken et al. (2002: 1)の分類に従う。

表1: テトゥン・ディリの文構造と風間(2014)による意味分類との対応

	典型のみ	典型+非典型	非典型のみ
直接変化	✓		
作成	✓		
知識	✓		
追求	✓		
知覚 ³	✓		
好悪	✓		
能力	✓		
社会行為	✓		
直接無変化	✓		
相互	✓		
需要	✓		
類似・包含関係	✓		
変転関係	✓		
言語行動		✓	
怒り・恐れ		✓	
移動		✓	
上手・下手		✓	
飲食欲求			✓
寒さ			✓

4. テトゥン・ディリのデータ

(1) 【直接影響・変化】

(1a) Nia {oho / hamate} lalar.

3SG kill extinguish fly

「彼はそのハエを殺した。」

(1b) Nia harahun kaixa nee⁴.

3SG destroy box this

「彼はその箱を壊した。」

(1c) Nia halo manas sopa.

3SG make hot soup

Nia halo sopa manas.

3SG make soup hot

「彼はそのスープを温めた。」

³ テトゥン・ディリでは能動知覚と受動知覚に差が見られなかったため, 表1ではまとめて「知覚」としている.

⁴ *nee* は照応的にも用いられ, 前に言及された対象を指す際や以前の行為や命題を指す場合にも使われる (Williams-van Klinken et al. 2002: 28).

(1d) Nia (koko) atu oho lalar nee, maibee lalar nee la mate.
 3SG try about.to kill fly this but fly this not die

Nia {oho / hamate} lalar nee, maibee lalar nee la mate.
 3SG kill extinguish} fly this but fly this not die
 「彼はそのハエを殺そうとしたが、死ななかつた。」

(1c)については、*halo* ‘make’を用いている。Williams-van Klinken (2008: 102)によると、*halo* を用いた動詞連続には2種類あるという。一方は核的動詞連続 (nuclear serialisation) で、*halo* の直後に動詞や形容詞が続く。他方、迂言的構文 (periphrastic construction) は二つの動詞を独立して否定することができ、二つ目の述部は動詞的でも形容詞的でも良い。

(1d)からは、*oho* ‘kill’という動詞にその結果が含意されないことが分かる。

(2) 【直接影響・無変化】

(2a) Nia tebe bola.

3SG kick ball

「彼はボールを蹴った。」

Nia tebe bola nee.

3SG kick ball this

「彼はそのボールを蹴った。」

(2b) Nia tebe ema (nee) nia ain.

3SG kick person this POSS leg

「彼は(その)人の足を蹴った。」

(2c) Nia baku ema nee ho intensaun.

3SG hit person this with intention

Nia iha hakarak atu baku.

3SG IHA want.to about.to hit

「彼は故意にその人にぶつかった。」

(2d) Nia la intensaun baku ema nee.

3SG not intention hit person this

Nia laós baku ho neon.

3SG indeed.not hit with mind

「彼は意図せずその人とぶつかった。」

(2c)と(2d)の意志があるかどうかの違いには語彙的な表現が用いられている。(2d)は否定の *laós* が動詞の前に置かれている。Williams-van Klinken et al. (2002: 87)によると、動詞の否定には通常 *la* が用いられ

るが, *laós* が用いられる場合には, 強い対照性を示すという.

(3) 【能動知覚と受動知覚】

(3a) Hau haree ema balu iha-nebaa.

1SG see person some there

「あそこに何人か見える。」

(3b) Nia haree uma.

3SG see house

「彼はその家を見た。」

(3c) Hau rona ema ida siak.

1SG hear person one scold

「誰かが叫んだのが聞こえた。」

(3d) Nia rona lian nee.

3SG hear sound this

「彼はその音を聞いた。」

テトゥン・ディリにおいて能動知覚か受動知覚かの違いはないようである。(3c)については, *rona* ‘hear’ が補文節を直接取っている.

(4) 【発見・獲得・生産など】

(4a) Nia hetan xavi nebee lakon horisehik.

3SG find key REL disappear yesterday

「彼は昨日なくしたカギを見つけた。」

(4b) Nia halo kadeira ida.

3SG make chair one

「彼は椅子を作った。」

(5) 【追求】

(5a) Nia hein hela⁵ bis.

3SG wait CONT bus

「彼はバスを待っている。」

(5b) Ohin, hau hein hela nia atu mai.

earlier.today 1SG wait CONT 3SG about.to come

「さっき, 私は彼が来るのを待っていた。」

⁵ *hela* は継続を示すアスペクトマーカであり, ‘reside, stay (in a place)’ という意味の自動詞としても使われる (Williams-van Klinken et al. 2002: 79).

- (5c) Nia buka hela nia karteira.
 3SG search.for cont 3SG.POSS wallet
 「彼は財布を探している。」

(5b)では *hein* ‘wait’が補文節を直接取っている。

(6) 【知識 1】

- (6a) Nia hatene di-diak⁶ buat barak.
 3SG search.for DER~good thing many
 「彼はいろんなことをよく知っている。」

- (6b) Hau {hatene / konhese⁷} ema nee.
 1SG know know person this
 「私はあの人を知っている。」

- (6c) Nia {konpriende / hatene} Tetun.
 3SG understand know Tetun
 「彼はテトウン語ができる。」

テトウン・ディリで「知っている」は *hatene* ‘know’であるが、対象が人の場合は *konehese* ‘know’も可能である。一方、言語の場合には *hatene* 以外に *konpriende* ‘understand’も可能である。

(7) 【知識 2】

- (7a) Ita hanoin hetan buat nebee hau hatete horiseik?
 2SG.POL think find thing REL 1SG tell yesterday
 「あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか。」

- (7b) Hau haluha {nia / ninia⁸} númeru telefone.
 1SG forget 3SG.POSS 3SG.POSS number telephone
 「私は彼の電話番号を忘れてしまった。」

(8) 【好悪】

- (8a) Inan ida hadomi nia oan.
 mother one love 3SG.POSS child
 「母は子供たちを愛していた。」

⁶ テトウン・ディリは形容詞を重複させることで、一部の副詞を派生することができる (Williams-van Klinken et al. 2002: 22).

⁷ *konehese* の対象は人に限られる (Williams-van Klinken 2015: 197).

⁸ Williams-van Klinken et al. (2002: 33) によると, *nia nia* ‘3SG POSS’は *ninia* または (より多くの場合) *nia* の形で用いられるという。そのためグロスに関して, 同形式の *nia* でも ‘3SG’, ‘POSS’, ‘3SG.POSS’の三通りがある。

(8b) Hau gosta hudi.
 1SG like banana
 「私はバナナが好きだ。」

(8c) Hau la gosta ema nee.
 1SG not like person this
 「私はあの人が嫌いだ。」

(9) 【需要】

(9a) Hau hakarak sapatu.
 1SG want.to shoe
 「私は靴が欲しい。」

(9b) Agora nia presiza osan.
 now 3SG need money
 「彼はお金が必要だ。」

(9a)の *hakarak* ‘want.to’ は一般的にその後に動詞が続くことが多い印象があるが, 名詞単独で目的語となることも可能であるようだ.

(10) 【怒り・恐れ】

(10a) Hau nia amaa hirus nia alin tanba nia bosok.
 1SG POSS mother angry 3SG.POSS younger.sibling because 3SG lie

Hau nia amaa hirus tanba hau nia alin bosok.
 1SG POSS mother angry because 1SG POSS younger.sibling lie
 「私の母は私の弟がうそをついたのに怒っている。」

(10b) Nia tauk asu.
 3SG afraid dog
 「彼は犬が怖い。」

(10b) Nia tauk Maria.
 3SG afraid Maria
 「彼は Maria が怖い。」

(10a)は怒りの原因を従属節で表している.

(11) 【類似・包含関係】

(11a) Nia hanesan ninia aman.
 3SG alike 3SG.POSS father
 「彼は父親に似ている。」

- (11b) Dosi nee iha hudi.
 cake this IHA banana
 「このケーキにはバナナが入っている。」

まず, (11a)に関しては, *hanesan* ‘alike’が他動詞として用いられている。Williams-van Klinken et al. (2002: 49)によると, *hanesan* が述語的に用いられるときは, 完全に動詞的であり, 他動詞的である場合も自動詞的である場合もあるという。自動詞文は以下のものである (Williams-van Klinken 2011: 92 より引用する)。*Sira nain rua hanesan deit.* ‘3PL master two alike just’ = ‘The two of them are the same.’

(11b)については, 所有を表す *iha* が用いられて, 直訳すると, 「このケーキはバナナを持っている」のようになる。

(12) 【変転関係】

- (12a) Hau nia alin doutór.
 1SG POSS younger.sibling doctor
 「私の弟は医者だ。」

- (12b) Hau nia alin sai doutór.
 1SG POSS younger.sibling become doctor
 「私の弟は医者になった。」

(12b)の *sai* ‘become’は, 名詞句と形容詞句の両方を補部として取ることができる (Williams-van Klinken et al. 2002: 57)。

(13) 【能力】

- (13a) Nia bele lori kareta.
 3SG can carry vehicle

 Nia hatene lori kareta.
 3SG know carry vehicle
 「彼は車の運転ができる。」

- (13b) Nia bele nani.
 3SG can swim
 「彼は泳げる。」

テトゥン・ディリでは, 能力可能を *hatene* ‘know’で表現することができるようだ。 *bele* ‘can’については, Williams-van Klinken et al. (2002: 84)に, 動詞と似ていて他の補助動詞と異なる点が挙げられている。まず, *la* ‘not’によって否定される。次に, 補文節を取る動詞のように, *bele* だけでなく残りの節を否定することが可能である (*la bele baa* ‘not can go’ と *bele la baa* ‘can not go’)。最後に, *hatene* ‘know’のように, くだけた場面において *la bele* が補文節に後続することができる。

(14) 【上手・下手】

(14a) Nia diak *(atu) koalia.
3SG good about.to speak

Nia koalia diak.
3SG speak good
「彼は話をするのが上手だ。」

Nia la diak *(atu) koalia.
3SG not good about.to speak
「(ストレスが原因で,) 彼は話をすることができない。」

Nia koalia la diak.
3SG speak not good
「(病気が原因で,) 彼は話をすることができない。」

(14b) Nia la bele halai ho lalais.
3SG not can run with quickly
「彼は速く走ることが出来ない。」

diak ‘good’ については, Williams-van Klinken et al. (2002: 91)に, 様態を表す副詞として挙げられていて, 強意語 (intensifier) によって修飾されること, また *la* ‘not’によって否定されると述べられている.

(15) 【移動】

(15a) Nia too eskola.
3SG arrive school

Nia too ona iha eskola.
3SG arrive ANT LOC school
「彼は学校に着いた。」

(15b) Nia hakur dalan.
3SG cross path
「彼は道を渡った。」

(15c) Nia lao iha / liu / tuir dalan nee.
3SG walk LOC pass follow path this
「彼はこの道を通った。」

(15a)について, *too* ‘arrive’ と目的語との間に何らかの要素が介入する場合は場所を示す前置詞 *iha* が必要であるようだ.

(15c)については, コンサルタントによると場所を示す前置詞 *iha* が最も自然だという.

(16) 【飲食欲求】

(16a) Nia hamlaha ona.
 3SG hungry ANT
 「彼はお腹を空かしている。」

(16b) Nia hamrook ona.
 3SG thirsty ANT
 「彼は喉が渴いている。」

(17) 【寒さ】

(17a) Hau (sente) malirin.
 1SG feel cold
 「私は寒い。」

(17b) Ohin-loron malirin ona.
 today cold ANT
 「今日は寒い。」

(18) 【社会行為】

(18a) Hau ajuda nia.
 1SG help 3SG
 「私は彼を手伝った／助けた」

(18b) Hau ajuda nia (hodi) lori sasaan (nee).
 1SG help 3SG so.that carry goods this
 「私は彼がそれを運ぶのを手伝った。」

(18b)における行為の内容は、直接目的語とする以外に、目的の副詞節を導く *hodi* を用いることも可能である。ただ、前者の場合は *ajuda* ‘help’が文を目的語に取っているようにも見える。

(19) 【言語行動】

(19a) Hau husu nia razaun.
 1SG ask 3SG reason
 「私はその理由を彼に聞いた。」

(19b) Hau koalia ba nia kona-ba *(ida) nee.
 1SG speak to 3SG about one this
 「私はそのことを彼に話した。」

husu は受け手を直接目的語に取っているが、*koalia* は前置詞を用いている。

(20) 【相互】

- (20) Hau hasoru nia.
1SG meet 3SG
「私は彼と会った。」

略号一覧

1: 1 人称 / 2: 2 人称 / 3: 3 人称 / ANT: 過去 / CONT: 継続 / DER: 派生 / IHA: 所有・存在動詞 / LOC: 場所 / POL: 丁寧 / PL: 複数 / POSS: 所有 / REL: 関係詞 / SG: 単数

参考文献

- Williams-van Klinken, C. 2008. Boundaries of serialisation non-serialised verb sequences in Tetun. In: G. Senft (ed.) *Serial verb constructions in Austronesian and Papuan languages*, 99-111. Pacific Linguistics, Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.
- Williams-van Klinken, C. 2011. Peace Corps East Timor Tetun language course, 2nd edn. Dili: Peace Corps East Timor.
- Williams-van Klinken, C. 2015. *Word-finder Tetun/English*. 2nd edition: Dili Institute of Technology.
- Williams-van Klinken, C., J. Hajek & R. Nordlinger. 2002. *Tetun Dili: a grammar of an East Timorese language*. Canberra: Pacific Linguistics.

風間伸次郎. 2014. 「(特集「他動性」) まえがき」『語学研究所論集』19. 東京外国語大学語学研究所. 33-70.

佐近優太. 2020. 「インドネシア語の他動性」『語学研究所論集』25. 東京外国語大学語学研究所. 265-279.

執筆者連絡先 : kato.wakana.v0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2025 年 11 月 4 日

刊行年月日 : 2026 年 3 月 31 日